

とうもろこしサイレージを利用した乳用雄牛の肥育

県畜産試験場 大家畜部(現、農研センター畜産研究所大家畜部)

研究のねらい

肥育経営にとって、飼料の購入費をいかに安く抑えるかが収益を高めるためのポイントである。そこで、10 a当たりの収量が多く、また、し好性も高いとうもろこしサイレージを利用して、乳用雄牛の自給飼料多給型肥育技術を確立する。

研究の成果

1. 生後6ヶ月齢から14ヶ月齢まで8ヶ月間にわたり、とうもろこしサイレージを飽食させたが、配合飼料を飽食させた場合と同様に良好な増体を示した。
2. 従来の濃厚飼料多給による肥育方式に比べて、配合飼料を1頭当り1.2t節減でき、その分4.6tのとうもろこしサイレージが必要であった。
3. サレージの喰い込みをよくし、また、選り喰いを防ぐには、フォーク等を用いてとうもろこしサイレージと配合飼料をよく混合して給与すること。
4. 粗飼料飽食期から仕上期に移るときの性急な餌の切り替えは、下痢発生の原因となるため、糞の状態に注意しながら、配合飼料は1日1頭当たり500gずつを目安として増量し、また、粗飼料も徐々に減らしてゆくよう心掛ける。
5. この技術の応用としては、酪農経営において牛乳の生産調整と泌乳能力の向上により余裕のできた施設と粗飼料を用いて肥育を行なう方法などが考えられる。

とうもろこしサイレージの成分（当场産）

DM%	DCP%	TDN%
30～35	1.0～1.5	20～25

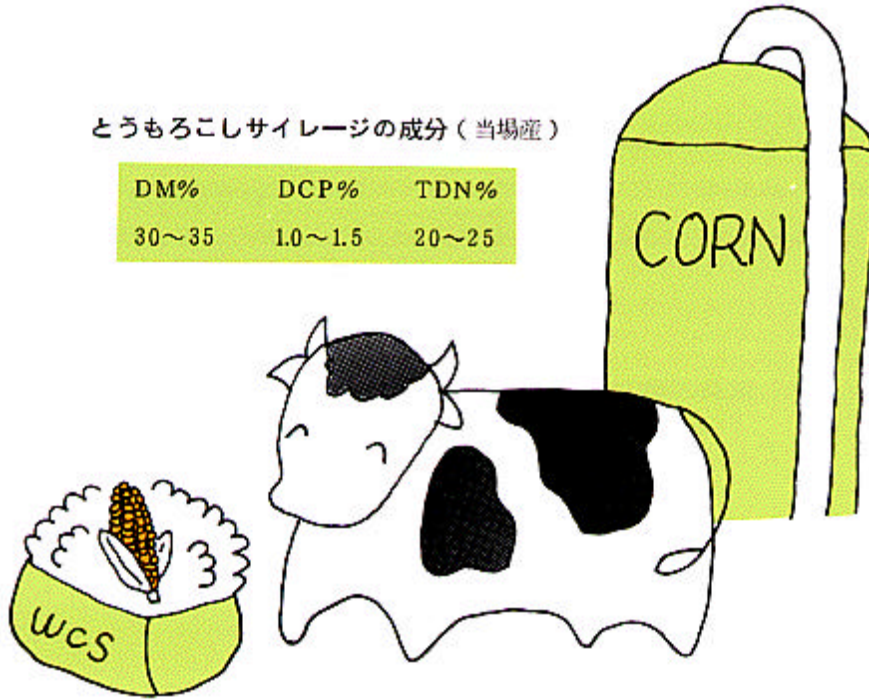


図 とうもろこしサイレージの成分

表 給与量の目安（1日当たり）（単位：kg）

月齢	体重	とうもろこしサイレージ	配合飼料	稲ワラ
6	250	13	2.5	1
7	285	15	2.5	〃
8	320	20	2.5	〃
9	360	22	2.5	〃
10	400	22	3.5	〃
11	440	24	3.5	〃
12	480	24	3.5	〃
13	520	26	4.0	〃
14	560	26	4.0	〃
15	600	-	飽食(10～15)	飽食(1～2)
16	635	-	〃	〃
17	670	-	〃	〃
18	700	-	〃	〃